

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立南毛利中学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】		校長名 奥脇 裕子
学校教育目標		学校経営の方針		
「より強く、より高く、より美しく」 ～高い知性と豊かな情操を持ち、心身を鍛え、勤労を尊び、自主的に行動できる、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成～		【目指す学校像】 ●生徒一人一人が主体性を持ち、生徒活動に積極的に参加する活気のある学校 ●生徒が持つ資質能力を高め、人間尊重と生命に対する畏敬の念を育む学校 ●家庭・地域との連携に努め、協働の精神を大切にする学校 【目指す教師像】 ●生徒に寄り添い、生徒の心の痛みがわかる教師 ●絶えず授業改善・研鑽に取り組む教師 ●常に人権感覚を磨き、適切な思考・判断・行動ができる教師 ●家庭や地域との連携、協働を積極的に推進できる教師		
今年度の重点目標				
(1)生徒一人一人の資質・能力を高め、確かな学力の定着を図る。 (2)生徒の意欲と活気に満ちた学校づくりを推進する。 (3)生徒と教師との信頼関係を築き、積極的な生徒指導を行う。 (4)支援を必要とする生徒の課題を明確にして、全職員で対応する。 (5)心身ともに健康で、安心・安全な生活を送ることができる能力を高める。 (6)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。 (7)家庭や地域との連携を強化し、信頼される学校をつくる。				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1)生徒一人一人の資質・能力を高め、確かな学力の定着を図る。	1・3	①アクティブラーニングを意識した授業を実践し、教師自らが自己研鑽につなげる。 ②研究推進校等の研究実践を学び、職員会議や教科部会等で情報共有化を図るとともに、生徒一人ひとりの力を伸ばす教育活動の実践に活かす。 ③社会に開かれた教育課程を編成し、社会とのつながりを意識した取組を推進するとともに、学校運営協議会等、多様な方々との協働を通じた学習の機会を充実させる。	→学期に1回授業公開を行い、研究協議を行った。様々な授業を参観し、協議する中で、効果的な研修が実施できた。 →職員会議の中で研修を行い、共有化を図った。 →ホームページ・保護者会・学校運営協議会等で公開した。また、総合的な学習の中で、学校運営協議会に参画してもらい、職業インタビューの訪問先を決定し、訪問先に発表会を公開した。	→今年度の方法を継続し、さらなる研鑽を目指す。 →年度当初に共通理解の研修を行う。 →次年度も継続

(2)生徒の意欲と活気に満ちた学校づくりを推進する。	1	①個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮しながら集団を作れるよう、学級活動や生徒会活動、学校行事等を通して人間関係づくりの充実を図る。 ②生徒たちが主体的に参画することができるよう、縦割り活動などの創意工夫を図るとともに、清掃活動など日常生活における自治活動の充実に努める。 ③地域連携の機会を増やし、関係団体との連携を大切にした教育活動を実践する。	→様々な行事の中で、多くの生徒が企画運営に携わる機会を設け、生徒がリーダーになって学校を作っていく意識を醸成した。 →多くの行事で、縦割り団を活用した取組を行った。3年生を見本として、前向きに清掃に取り組む生徒が増えた。 →学校運営協議会との話し合いをもとに、従来の登下校指導に加えて、放課後の活動のない日は、学年ごとに時間差で下校し、交通安全やマナーの向上に努めた。	→次年度も継続 →次年度も継続 →次年度も継続
(3)生徒と教師との信頼関係を築き、積極的な生徒指導を行う。	2・3	①規律の確立と居場所・人間関係づくりを基盤とした「わかる授業・魅力ある授業」を実践する。 ②積極的に生徒と関わり、生徒理解を深めるとともに信頼関係を築く。 ③携帯・スマホ等、現代社会における様々なツールの生かし方や課題について、保護者とともに考える機会を設け、適切な指導につなげる。	→生徒の取組も定着し授業規律は整えられている。公開授業・研究授業を通し指導方法の改善が見られた。 →教育相談優先日を設定し、定期的を実施しているアンケート(心のつぶやき)を効果的に活用して、教育相談やチャンス相談を行い、生徒理解に努めた。 →全校対象の「情報モラル教室」を実施した。また保護者会の折に「家庭用啓発」プリントを配付した。生徒アンケートにも設問を載せ、結果の分析を行った。	→次年度も継続 →次年度も継続 →次年度も継続
(4)支援を必要とする生徒の課題を明確にして、全職員で対応する。	1・3	①「報告・連絡・相談」を密にし、スムーズな教育相談体制の確立につなげる。 ②支援に係る会議等の充実を図り、適切な支援体制の構築に努める。 ③スクールカウンセラー等と連携を図り、よりよい教育活動の推進に努める。	→回覧板を校務フォルダの記録に活用し、日常的に情報の共有化を行った。特に必要な内容は職員会議でも徹底を図った。 →時間割の中に支援の定例会を設定し、リアルタイムで課題に取り組んだ。ケース会議も放課後に適宜設定した。 →毎週金曜日を活用の日と定め、情報交換や相談活動に取り組んだ。また、ステップルームを設置し、教室に入りにくい生徒が教室に復帰できるまでの居場所として活用した。	→次年度も継続。 →次年度も継続。 →次年度も継続しながら、ステップルーム利用のルールを確認していく。

(5)心身ともに健康で、安全・安心な生活を送ることができる能力を高める。	1	①規則正しい生活を送らせるために、食事・休養・運動の重要性を理解させ、生活習慣を見直し、改善させる能力を育成する。 ②アクションカード等を活用した傷病者対応や防災訓練研修を実施し、校内全体の防災意識を高め、命の大切さを考える機会を構築する。 ③校内でのケガ等の予防と対策について、全校生徒の意識向上を図る取組につなげる。	→毎月の保健だよりで生徒や保護者への啓蒙活動を行った。また、心の健康をテーマに全校一斉に学校保健委員会を実施した。 →避難訓練の回数を重ねながら、教員の動きの課題点を見つけ、改善した。 →校舎内外での過ごし方を指導し、けがの予防に努めた。授業や部活動の中での症例を参考に、活動場所や内容の工夫を行った。	→次年度も継続の予定。 →地域の防災訓練にも積極的に参加できるように呼びかけを工夫する。 →引き続き指導する教師は、感染やケガのリスクを想定し取り組んでいく。また生徒(保健委員)からの発信や保健だよりでの注意喚起を継続する。
(6)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む。	2	①自他を大切にする心、いじめを許さないという心を育み、人権意識の向上に努める。 ②生徒が互いを尊重し、認め合えるような授業実践や行事運営を推進し、時代を見据えた企画運営(手話等)に努める。 ③生徒自身が自分の問題として捉え、考える道徳教育を推進し、様々な人と関わり、社会の一員として生きる力の土台作りを構築する。	→人権放送を年5回実施した。人権週間内に「人権道徳」を設定した。また生徒会主催の「いじめゼロ」の取組も、道徳の時間を活用し、年3回行った。 →儀式的行事の中で手話を交えて話をしたり、学級活動の中で手話について考える機会設けたりした。 →ローテーション道徳などで授業方法を研究しながら、様々な意見を共有するために、ワークシートやタブレット端末の使い方を工夫した。	→次年度も継続 →次年度も継続 →次年度も継続
(7)家庭や地域との連携を強化し、信頼される学校をつくる。	3	①保護者、地域の方々と一緒に教育活動を進めるため、「コミュニティ・スクール」を活性化させ、よりよい学校支援体制を構築する。 ②生徒会活動や部活動を通して、小学校や地域と積極的に連携する。 ③自治会単位の組織を中心として、地域活動に対して生徒が積極的に参加できるようにする。(健全育成会の行事、公民館の行事、自治会清掃行事など)	→運営組織や活動内容の見直しを行った。運営の効率化が図れた。 →吹奏楽部と合唱部が、小学校や地域の行事に訪問し演奏を行った。 →防災訓練と年末美化清掃の日は部活動を中止し、学校としての参加体制を取った。事前に自治会別集会を開き、参加を促した。	→左記の成果を継続。さらに内容の充実を図りたい。 →本年度の活動を継続させるとともに新たな連携方法を研究していきたい。 →次年度も本年度並みの体制を取りたい。事前指導の方法を工夫し、参加率を上げたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
○資料の中のアンケートの結果が低いもののうち、原因の説明と対策が記載されているとわかりやすい。 ○コミュニティスクールの周知について学校だより等で広報活動を行うとともに、「地域学校協働活動」も含め学校運営協議委員以外の教職員の理解の場を設けたほうが良い。 ○校舎内の掲示物等も含め細かなところに人権意識を向けていくとよい。 ○情報モラル教室などの中で、SNSのトラブル以外にも、フリマアプリ等の扱いにも触れてほしい。 ○ヤングケアラーがどの程度いるのか気になる。
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針
〈学校経営のまとめ〉 ・厚木市教育大綱「未来を担う人づくり」の実現化に向け、生徒一人ひとりが意欲的に活動する明るく元気な学校づくりの推進に取り組んできた。自分の学校経営の基盤に置いてきたものは、「人材育成」「働き方改革」「人権教育の推進」「社会に開かれた教育課程編成」の4点であり、今年度も前年の反省をもとに、少しずつ改革を進めてきた。 ・成果としては、各グループ、各学年ごとに中堅教諭、若手職員が行事等に積極的に参画できたことである。総括教諭等のアドバイスを受けながら、意欲的に企画立案する様子は徐々に高まっている。多少の失敗も本人たちの成長の糧なので、今後も臆することなく初志貫徹するような人材育成につなげていきたい。また、総括教諭が学校づくりの核として有効的に動く組織作りも併せて強化していきたい。 〈学校関係者評価委員会からの意見について次年度の改善方針〉 →来年度については、分析結果と次年度の方向性を簡潔に記載する。 →HPや各配布物への記載、職員会議等での報告など、コミュニティスクールの保護者・教職員への広報活動の方法をさらに工夫し、地域の行事に参加する職員を増やすなどして協働意識を高める。 →外部の方が入られる場所に個人情報がかかるような掲示物を貼らないようにする。 →設定されている学級活動や情報モラル教室の内容について、本校の現状に合わせたプログラムを実施していく。 →普段の観察のみならず、生徒自身が事故の状況を認識できる環境づくりや地域との協力の中で、ヤングケアラー等の早期発見を目指す。